



読書の力

副校長 博多 正勝

先日の保谷小学校運動会には、多くの保護者及び地域の皆様方に御参観いただき、ありがとうございます。

当日、全力で競技・演技に打ち込む子供たちの裏には、運営を行う教職員をはじめ、PTA役員・委員の方々による様々な御尽力がありました。

また、当日見守っていただいた保護者及び地域の皆様方には、今回の運動会を実施するにあたり、数多くの御協力がありました。まさに「チーム保谷小」でやり遂げた運動会でした。本当にありがとうございました。感謝申し上げます。

運動会が終わり、これからは通常の時間割に戻り、子供たちが落ち着いて学校生活を送っていくことが大切になります。その中で、表題にある「読書の力」について少々、述べさせていただきます。

5月に西東京市に籍を置く小学校教員対象の研修会があり、そこで絵本作家の「杉山 亮（あきら）」さんの講演がありました。児童書「もしかしたら名探偵」シリーズの作者であり、昨年度、泉小学校の研究発表会で講演されたと聞きましたので、御存知の保護者がいるかもしれません。

講演の中で杉山さんの言葉の「大人が子供と一緒に本を読むことと、大人が子供に読み聞かせをすることが、子供を本好きにさせますよ。」が印

象に残っています。

杉山さんの話によると、学校でよく行われている「朝読書」で子供たちと一緒に教師が読書をすることで、教師がよいモデリングになり、子供たちの読書率が向上したとのことでした。

下に示してある表は、昨年度東京都教育委員会が実施した「児童・生徒の学力向上を図るための調査（小学校5年生・中学校2年生実施）」の「児童・生徒質問紙調査」から、「読書時間と平均正答率との関係」（東京都全体の平均）を表しています。

この表から、読書時間と学力との関係がよく分かります。読書活動の推進は、「生きる力の育成」のために、今年度の本市教育委員会の主要施策の一つでもあります。市としては、各校に学校司書を配置し、学校図書館の充実を図っています。本校としては、市内図書館から学級文庫用に書籍の団体貸し出しを行うとともに、今年度から毎週木曜日の8時25分から8時45分まで「読書時間」として、全校読書に取り組んでいます。

杉山さんは「最近、電車の中の様子を見ると、多くの人は携帯電話ばかりさわっていて、本を読む人が少なくなりましたね。」と話していました。ぜひ、御家庭でも「読書時間」や「ノーテレビ・ゲーム時間」の設定にチャレンジしてみてもいいでしょうか。新しい世界が広がると思います。

都学力調査の詳細は、都教育委員会HP（報道発表資料）、市教育委員会主要施策は、市教育委員会HP（教育目標・教育計画・主要施策）に掲載されています。

読書時間と 平均正答率との関係	平均正答率（％）				
	国語	社会	算数	理科	教科合計
2時間以上	80.7	74.5	66.8	70.0	73.0
1時間～2時間未満	80.7	75.6	68.6	71.4	74.1
30分～1時間未満	78.3	74.5	66.2	69.3	72.1
30分未満	71.7	68.4	59.8	63.3	65.8
読書をするのではない	62.8	59.1	49.6	54.5	56.5

30分未満でも10%近く違っています。

学力向上プロジェクト担当 池下 直子

~~~~~「家庭学習」について~~~~~

担任している1年生のある子が、「このひらがなプリント、早くおうちに持って帰りたいな。」と言いました。花丸を、おうちの方に見せたいのだそうです。子供たちは、がんばったことをほめてもらうことで大きな自信を得、次への意欲がわいてきます。家庭学習は、その大切な場です。特に低学年では文字練習や色ぬりを丁寧にするよう励ましたり、音読を聞いてあげることで、これからの学習の基礎となる「読み・書き」の力が育っていきます。また、授業で学習した算数の内容をおうちの方に図や言葉で説明しながら式を立てることも考える力を高めるのに有効です。「宿題」として出された学習内容をノルマとしてこなすだけでなく、その中からはめる種を見つけたり、分からないところと一緒に考えたりしていただけたら、と思います。

また、宿題の他に、各ご家庭で「自主学習としての家庭学習」に挑戦することも、自ら学ぶ力を身に付けるためには大切なことだと思います。例えば、繰り返し漢字を書くだけではなく熟語をつくって俳句にする、漢字のビンゴゲームをするといった楽しい学習もおすすめです。また、視写は筆速を鍛える、語彙や漢字の定着、段落の意識をつけるといった効果もあるので、ご家庭で毎日10分くらい取り組むと力がつくでしょう。高学年では新聞のコラムの視写も、社会への窓を開くきっかけになります。

学習場所としては、個室にこもるよりもおうちの方の気配の感じられる所でテレビを消すなど、落ち着いて取り組めるような環境づくりにご協力いただけるとよいと思います。

学校と家庭が連携して子どもたちの学力を向上させることができるよう、家庭学習での励まし・見守りをどうぞよろしくお願いいたします。

体力向上プロジェクト担当 藤崎 俊樹

体力向上プロジェクトがスタートして2ヶ月がたとうとしています。先日、1年間で一番大きな体育的行事である運動会が開催され、子供たちは精一杯がんばりました。たくさんのご声援、ご協力ありがとうございました。

今年度より体力向上の取組として、中休み10分間を使い業間体育を実施しています。4月末から始め現在までに2回の業間体育として大縄跳びを行いました。子供たちも久しぶりの大縄跳びでしたが、限られた時間の中で各学年とも積極的に取り組みました。今後の課題としましては、体力向上のために継続的に業間体育の時間を確保することがあげられます。また、毎回ただ運動に参加するだけではなく、クラスや個人で目標をしっかりと定めて、それに向かって取り組めるようにしていきます。

5月1日には、体力テストが行われました。各学年、よい記録を出そうと意欲的に取り組む姿が見られました。今後は、体力テストの結果をもとに苦手な分野を強化し、得意な分野をさらに伸ばし体力向上を目指していきます。

生活指導プロジェクト担当 飯塚 庫健

~~~~~「ピーポくんの家 訪問」について~~~~~

日頃から、児童の安全の為に様々な場面でのお力添えに感謝申し上げます。役員の皆様をはじめ、保護者、地域の方々の献身的な対応に生活指導プロジェクト担当としても日々、心強く感じております。

さて、6月3日（水）の5時間目終了後、「ピーポくんの家 訪問」の為、集団下校となります。5月の安全指導においては「不審者から身を守ろう」がめあての1つであり、もし、不審者と遭遇したら、どのように対応すればいいか……。今回の集団下校は、そのピーポくんの家庭訪問という、児童の安全の為には欠かすことのできない大切な目的があります。地区委員長をはじめ、役員、班長の方々、当日お手伝いをしてくださる保護者、地域の方々、どうぞよろしくお願い申し上げます。

また、通学路の安全確保に関する調査を過日実施しました。PTA役員・地域委員の皆様方に通学路の危険・要注意箇所の確認作業等ご尽力いただきました。感謝申し上げます。

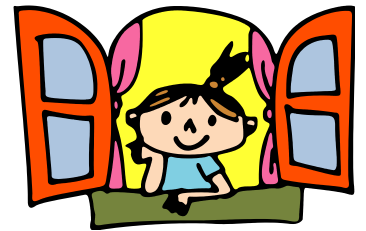
特別支援教育とは？-個別の支援の視点から-

特別支援教育コーディネーター 塚本 菜々子

特別支援と聞くと、特別な課題のある子の支援だと思われがちです。でも、子供たちは一人一人違い、全ての子供たちがそれぞれの支援を必要としています。算数の苦手な子、文字を書くのが苦手な子、友達との関係がうまくいかない子、集団行動が苦手な子……。決して特別な問題ではなく、みんなそれぞれの課題があり、支援を必要としているのです。特別な支援を行うという見方ではなく、子供たちが元気で楽しく学校生活を送るために、一人一人に必要な支援を行うという見方で取組んでいこうと考えています。

子供たちが、日々生き生きと生活する“秘訣”は子供の“よさ”に気づくことです。心配や不安が生じると子供本来のよさを覆い隠してしまいがちです。特別支援教育とは、その子自信のよさを周りが気づき、子供自身が気づき、自分に対する自信をもちながら育っていくためのものです。

子供の育ち方に不安を感じたり、育て方に迷ったら、あるいは、勉強に対する心配が生じたら、まずは担任の先生と相談して下さい。担任も含め、スクールカウンセラーの先生、学年の先生、学校支援アドバイザーなど様々な人の知恵を借りながらその子にあった支援を考えていきたいと思っています。



正しい発音をそだてるために（ことばの教室『えがお』から）

えがお主任 塚本 菜々子

私たちは、苦もなく正しい発音で話しています。ですから、話すということが大変スピーディで、巧みで協調性に富んだ運動の一つであるとは思わないのが普通です。正しい発音の身に付き方も、自然でしたから、正しい発音で話せることが当たり前と思っています。でも、ちょっと考えてみて下さい。例えば「あ」という音をどうやって出しているかを言葉で説明するとしたら・・・。

実は発音というのは耳の様々な働きと息づかいの調節、くちびるや下あごや舌などの筋肉の巧みな動きとがタイミングよく協力し合って行う運動なのです。どれかひとつでもタイミングをはずしてしまうと正しい発音は生まれません。このように考えると、発音を間違えずに覚えたことの不思議を思わずにはいられません。

子供の成長と同様に発音が育つためにも、何よりも“愛情豊かな親子関係”が必要です。“愛情豊かな親子関係”とは、親と子がしっかりお互いの思いを受け止められる関係です。そこから楽しい会話が



生まれ、発音が育つための土壌が耕されるのです。ぜひ、お子さんの話に耳を傾けお子さんの言葉と心を豊かに育てて下さい。発音が育つには《心》と《耳》と《口》がともにバランスよく育つことが大切なのです。

6月 行事予定表			6月の生活目標 廊下や階段は静かに歩きましょう		
日	曜	学校行事	日	曜	学校行事
1	月	全校朝会 緑の読書月間(始) 委員会活動	16	火	安全指導 内科検診(2, 4, 6) 1:00
2	火	4時間授業 個人面談②	17	水	4時間授業 水泳指導(始)
3	水	集団下校(ピーボクんの家訪問)	18	木	
4	木	通常時程4時間授業 個人面談③	19	金	歯科検診(2, 4, 6) 9:00
5	金	4時間授業 個人面談④	20	土	
6	土		21	日	
7	日		22	月	学校公開 避難訓練 歯科指導(1) 全校朝会 クラブ活動④
8	月	クラブ活動②	23	火	5時間授業
9	火	歯科検診(1・3・5) 9:00 5時間授業 個人面談⑤	24	水	4時間授業
10	水		25	木	
11	木	個別学習なし	26	金	
12	金	プール準備(6)	27	土	
13	土		28	日	
14	日		29	月	全校朝会 クラブ活動⑤
15	月	全校朝会 クラブ活動③ 内科検診(1, 3, 5) 1:00	30	火	保護者会(3, 4) 緑の読書月間(終)

様々な関わり合いの中で 2年 中野目 愛

今回は、2年生の異学年交流の中から、子供たちの素敵な場面をお伝えします。保谷小では、様々な学習や行事の際に異学年で交流する場面があります。先月に行われたスポーツテストでは、2年生はペア学年の5年生と一緒に各種目に取り組み、お兄さん・お姉さんからやり方を教えてもらったり、お手本を見せてもらったりしました。様々な種目で好記録を出したり、優しく接したりする5年生の姿に2年生の子どもたちは「すごい!」、「さすが5年生!」と尊敬の眼差しで見つめていました。5年生の優しい姿と、その5年生に安心した様子の2年生の表情。とても温かな雰囲気でした。

さて、その2年生も、この春から上級生になり、1年生とペアで交流しています。一人一人に地区班を書いたペンダントを作ってプレゼントしたり、休み時間には時々一緒に遊んだりすることもあります。普段は、まだ低学年らしく可愛らしい様子を見せる2年生ですが、1年生と一緒にの時には表情が一変して、「先輩の顔」になります。優しく1年生の手を引いて遊びに連れて行く2年生の後ろ姿には頼もしささえ感じられます。今まで上級生に優しくしてもらったことを、これからは自分たちがお兄さん・お姉さんになって、いろいろなことを教えてあげよう、優しく接しようとする姿はとても素敵です。

「様々な関わり合いの中で育つ。」これも保谷小の伝統の一つです。自分が上級生に優しくしてもらったことを、次は自分がしてあげる。そして、その気持ちがまた次へと繋がっていく。とても素敵なことだと感じます。これから、1・2年生では生活科で学校探検、夏の水泳学習に向けて合同で水泳の授業、さらに秋には一緒に遠足に行きます。様々な関わり合いを通して、思いやりの気持ちや責任感を育て、保谷小の上級生としての気持ちや意識を高めていきたいと思います。

